

進捗状況の概要（1ページ以内）

【学内の実施体制】

- 1) AP 事業推進部会（学長直轄の教育改革推進委員会のもとに置かれた専門部会）：学部やセンターを代表する教員と、キャンパス教学関係部署を代表する職員とで構成され、月1回のペースで事業推進の諸課題を審議した。
- 2) FDer 連絡調整ワーキンググループ：AP 事業推進部会員である教員、ならびに各学科・センター等に所属する教員から選ばれたファカルティ・ディベロッパー（FDer、29年度末時点で49名）によって構成される。4つの役割分担ごとにチームを組み、実務を推進するとともに、FDer 自己評価ルーブリックによって示された到達目標へ向けて研鑽を図った。
[4つの役割分担] ①組織的教育改善 ②AL 実践と普及 ③学修成果の把握 ④SA との協働

【中心となる取組】

- 1) FDer 養成：アクティブ・ラーニング（AL）の実践者であり、かつ学内への AL 普及を担う FDer の養成（研究会を5回開催）に取り組んだ。平成29年度からは、FDer 相互の授業ピアレビューを導入し、他の FDer の授業ノウハウを学ぶとともに、相互に評価するスキルを磨いた。それに加え、県内高等学校への授業参観を実施し、高大接続改革を見据えた中等教育との交流促進を図った。
- 2) 学修支援アドバイザー養成：ラーニングコモンズ等での個別学修支援、教員の要請による授業内外の AL 学修支援、学生の学びを学生視点で観察する授業ピアレビュー等を行う学修支援アドバイザー（Study Advisor：SA）を養成し、教員と職員が連携して SA 活動のフォローを行った。
- 3) 行動型学修、参加型学修への継続的な支援：上記の FDer、SA の活動とあわせ、学外学修への交通費助成や ICT 機器の購入・貸出により、県立広島大学型アクティブ・ラーニング（Campus Linkage Active Learning：CLAL）を推進した。また、これによる学生の成長を測るべく、アクティブ・ラーナー（ALer）自己評価ルーブリックを作成し、測定を試行した（平成30年度から本格導入予定）。

【取組の成果】

- 1) H29年度 AL 実施状況調査において、本学が定める AL 手法を1つ以上導入している授業が 92.1%、このうち AL を1学期に300分以上導入している授業（CLAL 基準適合科目）が 67.2% となった。
- 2) 学生基点の授業改善を目的とし、FDer が相互に授業を参観し、学生の動きや学びの様子を評価しあう「授業ピアレビュー」を試行した。
[前期実績] 公開 35 科目、参観 31 名 / [後期実績] 公開 54 科目、参観 44 名
- 3) 高大接続（高等学校長経験者による講演、高等学校授業参観、合同発表会）の促進をはかった。
[高校授業参観実績] 訪問校数：4 校、人数：のべ 25 名

【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】

ALer 育成を軸とした教育改革を持続可能な形で実施するため、行動型学修推進経費の助成基準や運用方法の見直しに着手したほか、ALer 育成を見据えた教職員研修の在り方について検討を開始した。

【学内外への波及効果】

事業成果の学内外への波及を図るため、下記の広報活動に取り組んだ。

- 1) 広報物の作成・配付：①H28 年度年次報告書（600 部）、②ニューズレター Vol.4（9,000 部）
- 2) 「Find! アクティブラーナー」を利用した授業動画の撮影・公開（テーマ I 連携事業）：
撮影・公開 1 件（生命環境学部授業） / 再生数 252 回（YouTube, H30.7.4 現在）
- 3) 平成 29 年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会への参画：発表 14 件、参加 308 人（学外者含む）
- 4) 平成 29 年度教育改革フォーラムの開催：参加 186 名（学外者含む）
- 5) 外部での成果発表：発表 7 件、参加者 738 名
- 6) 学外からの視察対応：他大学等による訪問調査 2 件